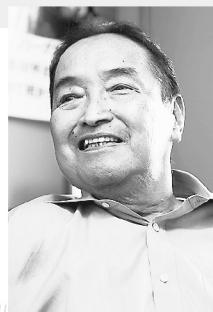


68年メキシコ五輪銅メダルの栄光は完全に消え去り、アジア予選敗退を繰り返すたびにスタンドには閑古鳥しかいなくなった。そんな日本サッカーの将来を憂い、プロ化の先鞭をつけてJリーグ発足に尽力した木之本興三（02年日韓W杯日本代表チーム団長）が、元ハンドボール日本代表主将の東俊介（大崎電気）と再生プランについて熱く語り合った。

東「男子ハンドボールは88年ソウル五輪を最後に世界の檜舞台に立てなくなり、国内リーグの人気も低迷。サッカーを劇的に変革した木之本さんの目にハンドボール界はどう映っていますか?」

『よそ者・若者・バカ者』のパワーが必要だと思います。よそ者として木之本さんたち他スポーツに関わってきた人から知恵を拝借し、若いハンドボール選手はレベルアップを



「まずはハンドボール関係者に『プロ化に将来を託す覚悟はおありますか?』と問いたいと思います」(木之本)

アリズム全盛の時代にプロという言葉自体にアレルギーがあり、「口にするだけでは『ついに血迷ったか?』と

けないと思っています」木の本「何よりもハンドボーラル協会のリーダーシップに期待しています。まずはプロ化へのたたき台を作り、きちんと文書化して具体的なイメージを共有することが大事。リーグ発足のノウハウを出し

に踏み切ると悟りを決め、今の段階からグラン  
ドデザインを描いていく  
必要がある。正直に言つ  
てハンドボールの認知  
度、将来性ともに低いと  
言わざるを得ない。ま  
ずはハンドボール関係者に  
『プロ化』将来を託す覚  
悟はおありますか?』

果たして面白い試合を提供。ボクたちOBがバカ者になり、ハンドボール再生のためになりあり構わずに働く。その覚悟は出来ています」

ボロクソに言われた。まずは選手のプロ契約制度を皮切りに環境整備を二歩ずつ進めたいものです。その点、ハンドボールには契約選手が既に存在している。当時のサッカー界と比べるとプロ化への素地が整っている印象があります」東「ハンドボールの知名度がアップするチャンスが3回ありました。97年に欧州以外で初となる世界選手権が熊本で開催された。6年、テグサ

けないと思っています」木の本「何よりもハンドボーラル協会のリーダーシップに期待しています。まずはプロ化へのたたき台を作り、きちんと文書化して具体的なイメージを共有することが大事。リーグ発足のノウハウを出

(次回3回目は9日登  
載)  
売号=10日付号に掲